

# 公立高等学校配置計画案

(平成31年度～33年度)

平成 3 0 年 6 月

北海道教育委員会

# 目 次

## I 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）策定の考え方

1 趣旨	1
2 中卒者数の見込み	1
3 基本的考え方	1
4 配置計画案（平成31年度～33年度）の概要	2
5 地域連携特例校等の再編整備の留保	3
6 配置計画の変更	3

## II 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）の内容

1 中学校卒業生数	4
2 欠員の状況	4
3 定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4 配置計画案（平成31年度～33年度）の学校別内訳	5
5 中学校卒業生数の推計及び推移	10

## III 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）学区別個表

空知南学区	12
空知北学区	13
石狩学区	14
後志学区	16
胆振西学区	17
胆振東学区	18
日高学区	19
渡島学区	20
檜山学区	21
上川南学区	22
上川北学区	23
留萌学区	24
宗谷学区	25
オホーツク中学区	26
オホーツク東学区	27
オホーツク西学区	28
十勝学区	29
釧路学区	30
根室学区	31

# I 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）策定の考え方

## 1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成31年度から平成33年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成34年度から平成37年度までの見通しを示したものである。

## 2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成31年に4万4,265人、平成32年に4万2,512人、平成33年に4万1,001人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

## 3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

### (1) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

### (2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編に併せて進める。

### (3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

### (4) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

#### 4 配置計画案（平成31年度～33年度）の概要

昨年決定した平成31年度及び平成32年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成33年度の配置計画を策定する。

##### (1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

##### (2) 平成31年度～32年度(平成29年度決定)高校配置計画の変更

###### 全日制課程

###### ア 学級減

平成32年度に1学級減とする大学科を、深川東高校及び富良野緑峰高校については商業に関する学科とし、名寄産業高校については工業に関する学科とする。

また、釧路工業高校については、1学級減とする小学科を電子機械科とする。

###### イ 再編整備

平成31年度に、幕別町内において、私立江陵高校が募集停止となることや、地域の要望などを考慮し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、幕別高校を募集停止し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は3学級、学科は普通科とし、私立江陵高校の校舎を使用する。

###### ウ 職業学科の学科転換

平成32年度に、学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向や地域の要望などを総合的に勘案し、学級減と併せて、深川東高校では流通経済科及び情報処理科を総合ビジネス科に、函館工業高校では電気科及び情報技術科を電気情報工学科に、大野農業高校では農業科、園芸科及び生活科学科を農業科学科及び園芸福祉科に、富良野緑峰高校では情報ビジネス科及び流通経済科を総合ビジネス科に、名寄産業高校では電子機械科及び建築システム科を機械・建築システム科にそれぞれ学科転換する。

また、岩内高校については、事務情報科を地域産業ビジネス科に学科転換する。

###### エ 単位制の導入

平成32年度に、岩内高校において、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、地域産業ビジネス科に単位制を導入する。

###### オ 地域連携特例校の導入

平成31年度に、教育環境の維持向上を図るため、新たに夕張高校及び松前高校を地域連携特例校とする。

###### カ その他

平成30年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った、長沼高校ほか14校の平成31年度の募集学級数については、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

### (3) 平成33年度高校配置計画

#### ア 全日制課程

##### (ア) 学級増減

各学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、札幌真栄高校で1学級の増、滝川高校ほか15校で17学級の減を行う。

なお、職業学科設置校の学級減後の学科構成については、産業技術の進展や地域産業の特性等を踏まえたものとなるよう検討する。

##### (イ) 再編整備

中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを総合的に勘案し、南幌高校を募集停止とする。

##### (ウ) 再編整備・移管

地域からの要望を考慮し、大空町において、女満別高校（道立全日制課程）及び東藻琴高校（町立定時制課程）を再編し、町立の新設校（全日制課程）を設置する。

なお、新設校の募集学級数は1学級、学科は総合学科とし、町に移管予定の女満別高校及び東藻琴高校の校舎を使用する。

#### イ 定時制課程

苫小牧工業高校において、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない学科があることから、学科の再編整備を行う。

なお、再編整備後の学科については、産業技術の進展や地域産業の特性等を踏まえたものとなるよう検討する。

### 5 地域連携特例校等の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、こうした状況となっている蘭越高校、虻田高校、苫前商業高校、常呂高校、阿寒高校及び置戸高校については、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

### 6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

## II 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）の内容

### 1 中学校卒業生数

平成30年（実績）	44,830人	（対前年比 859人減少）
平成31年（推計）	44,265人	（対前年比 565人減少）
平成32年（推計）	42,512人	（対前年比 1,753人減少）
平成33年（推計）	41,001人	（対前年比 1,511人減少）

### 2 欠員の状況 （平成30年5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,050人（236人）	1,195人（-39人）	1,124人（-300人）	5,369人（-103人）

※（ ）は対前年増減

### 3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区分	公立			高等専門学校	私立	計		
	全日制	定時制	中等教育学校					
平成30年度	定員（人）	33,300	2,320	240	720	11,574	48,154	
	割合（％）	74.3	5.2	0.5	1.6	25.8	107.4	
公立高等学校配置計画案	平成31年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0
		学級減（人）	-240	0	0	0	0	-240
		新設（人）	360	0	0	0	0	360
		募集停止（人）	-280	0	0	0	-117	-397
		差引増減（人）	-160	0	0	0	-117	-277
		定員（人）	33,140	2,320	240	720	11,457	47,877
		割合（％）	74.9	5.2	0.5	1.6	25.9	108.2
平成32年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0	
	学級減（人）	-1,000	0	0	0	0	-1,000	
	新設（人）	0	0	0	0	0	0	
	募集停止（人）	0	0	0	0	0	0	
	差引増減（人）	-1,000	0	0	0	0	-1,000	
	定員（人）	32,140	2,320	240	720	11,457	46,877	
	割合（％）	75.6	5.5	0.6	1.7	27.0	110.3	
平成33年度	学級増（人）	40	0	0	0	0	40	
	学級減（人）	-680	-40	0	0	0	-720	
	新設（人）	40	0	0	0	0	40	
	募集停止（人）	-80	-40	0	0	0	-120	
	差引増減（人）	-680	-80	0	0	0	-760	
	定員（人）	31,460	2,240	240	720	11,457	46,117	
	割合（％）	76.7	5.5	0.6	1.8	27.9	112.5	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、平成31年度以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

#### 4 配置計画案（平成31年度～33年度）の学校別内訳

##### ◎ 平成30年度入学者選抜における第2次募集後の学級減／全日制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H30	空 知 南	道	長 沼	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
	空 知 北	道	深 川 西	全	普 通	4	2	-2	4 学級→2 学級
	石 狩	道	野 幌	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
	檜 山	道	檜 山 北	全	總 合	3	2	-1	3 学級→2 学級
	上 川 南	道	上 川	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
	留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	-1	6 学級→5 学級
	オホーツク東	道	斜 里	全	總 合	2	1	-1	2 学級→1 学級
	オホーツク西	道	紋 別	全	普 通	3	2	-1	5 学級→4 学級
		道	湧 別	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
	十 勝	道	清 水	全	總 合	4	3	-1	4 学級→3 学級
		道	広 尾	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
		道	本 別	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
	釧 路	道	標 茶	全	總 合	3	2	-1	3 学級→2 学級
		道	弟 子 屈	全	普 通	2	1	-1	2 学級→1 学級
根 室	道	根 室	全	普 通	4	3	-1	6 学級→5 学級	
計			15 校					-16 (-640)	

##### ◎ 平成31～33年度高校配置計画／全日制課程

###### (1) 学級増減

###### ① 学級増

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H31	-								
H32	-								
H33	石 狩	道	札 幌 真 栄	全	普 通	4	5	+1	4 学級→5 学級
計			1 校					+1 (+40)	

###### ② 学級減(学科名の前の※印は、平成29年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H31	空 知 南	道	岩 見 沢 西	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
	石 狩	道	札 幌 東 豊	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
	胆 振 西	道	室 蘭 工 業	全	情 報 技 術	1	0	-1	5 学級→4 学級
	胆 振 東	道	苫 小 牧 南	全	普 通	5	4	-1	5 学級→4 学級
	オホーツク中	道	北 見 柏 陽	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	北 見 商 業	全	商 業	2	1	-1	4 学級→3 学級
(小計)			6 校					-6	



実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 3 2	空 知 南	市	岩見沢緑陵	全	普 通	4	3	-1	6 学級→5 学級
	空 知 北	道	深 川 東	全	※商業(大学科)	2	1	-1	3 学級→2 学級
	石 狩	道	札 幌 月 寒	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 北 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 手 稻	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 丘 珠	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 西 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 白 石	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 あ す か げ	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	千 歳	全	普 通	6	5	-1	9 学級→8 学級
		道	北 広 島 西	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	恵 庭 南	全	普 通	6	5	-1	8 学級→7 学級
	市	市立札幌清田	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級	
	後 志	道	小 樽 桜 陽	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
	胆 振 西	道	室 蘭 東 翔	全	総 合	5	4	-1	5 学級→4 学級
	渡 島	道	函 館 工 業	全	※工業(大学科)	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	大 野 農 業	全	※農業(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
	上 川 南	道	旭 川 東	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
		道	旭 川 永 嶺	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
		道	富 良 野 緑 峰	全	※商業(大学科)	2	1	-1	4 学級→3 学級
上 川 北	道	名 寄 産 業	全	※工業(大学科)	2	1	-1	4 学級→3 学級	
才 木 ツ 中 東	道	網 走 南 ケ 丘	全	普 通	5	4	-1	5 学級→4 学級	
	道	釧 路 工 業	全	※電子機械	2	1	-1	6 学級→5 学級	
釧 路	市	釧 路 北 陽	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
	(小計)		2 4 校					- 2 5	
H 3 3	空 知 北	道	滝 川	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級
	石 狩	道	札 幌 東 陵	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	札 幌 英 藍	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	江 別	全	普 通	5	4	-1	8 学級→7 学級
		道	北 広 島	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
		市	市立札幌藻岩	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級
	胆 振 西	道	登 別 青 嶺	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
		道	伊 達 緑 丘	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
	胆 振 東	道	苫 小 牧 総 合 経 済	全	(検討中)	(検討中)		-1	4 学級→3 学級
	渡 島	道	函 館 中 部	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	八 雲	全	普 通	3	2	-1	4 学級→3 学級
	上 川 南	道	旭 川 西	全	普 通	5	4	-1	6 学級→5 学級
		道	旭 川 商 業	全	(検討中)	(検討中)		-1	6 学級→5 学級
	才 木 ツ 中	道	北 見 緑 陵	全	普 通	4	3	-1	4 学級→3 学級
十 勝	道	帯 広 柏 葉	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級	
根 室	道	中 標 津	全	(検討中)	(検討中)		-1	6 学級→5 学級	
(小計)		1 6 校						- 1 7	
計		4 6 校						- 4 8 (-1, 920)	

・ H32の深川東、函館工業、大野農業、富良野緑峰、名寄産業の学級減については、「(4) 職業学科の学科転換」を参照。

・ H33の中標津で1学級減とする大学科は、商業に関する学科とする。



(2) 再編整備

① 再編統合等(学校名の前の※印は、平成29年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H31	渡 島	道	函 館 西	全	普 通	3	0	-3	3学級→0学級
		道	函 館 稜 北	全	普 通	3	0	-3	3学級→0学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	6	+6	6学級 函館西校舎を使用
	十 勝	道	※幕 別	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
		道	※新 設 校	全	普 通	0	3	+3	0学級→3学級 私立江陵校舎を使用
	(小計)		再編等に伴う募集停止3校、新設2校						+2 (7学級の減、新設校で9学級の増)
H32	-								
H33	-								
計		再編等に伴う募集停止3校、新設2校						+2 (+80)	

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H31	-								
H32	-								
H33	空 知 南 道		南 幌	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	(小計)		1校						-1
計		1校						-1 (-40)	

(3) 再編整備・移管

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H31	-								
H32	-								
H33	オホーツク東	道	女 満 別	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
		町	東 藻 琴	定	生産科学	[1]	[0]	[-1]	[1学級→0学級]
		町	新 設 校	全	綜 合	0	1	+1	1学級 移管予定の女満別及び 東藻琴の校舎を使用 (移管の方法等については検討中)
	(小計)		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						±0 (1学級の減、新設校で1学級の増)
計		再編等に伴う募集停止2校、新設1校						±0 (±0)	

・ H33の東藻琴の学級減については、「◎平成31～33年度高校配置計画/定時制課程」を参照。

(4) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）（学校名の前の※印は、平成29年度に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H31	—								
H32	空 知 北 道	道	※深川東	全	流通経済	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 3学級→2学級
					情報処理	1	0	-1	
					総合ビジネス	0	1	+1	
	後 志 道	道	※岩内	全	事務情報	1	0	-1	
					地域産業ビジネス	0	1	+1	
	渡 島 道	道	※函館工業	全	電 気	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級
					情報技術	1	0	-1	
					電気情報工学	0	1	+1	
		道	※大野農業	全	農 業	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級
					園 芸	1	0	-1	
					生活科学	1	0	-1	
	上 川 南 道	道	※富良野緑峰	全	情報ビジネス	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級
					流通経済	1	0	-1	
					総合ビジネス	0	1	+1	
上 川 北 道	道	※名寄産業	全	電子機械	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級	
				建築システム	1	0	-1		
				機械・建築システム	0	1	+1		
(小計)		6校					-5		
H33	—								
計		6校					-5 (-200)		

(5) 総合学科の設置（再掲）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	募集学級数	摘 要
H31	—					
H32	—					
H33	オホーツク東 町	新 設 校	全	1	女満別・東藻琴の再編	
	(小計)	1校				
計		1校				

(6) 単位制の導入（学校名の前の※印は、平成29年度に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	摘 要
H31	渡 島 道	新 設 校	全	普 通	6	函館西・函館稜北の再編	
	宗 谷 道	稚 内 全	普 通	3			
			商 業	1			
(小計)		2校					
H32	石 狩 市	市立札幌清田	全	普 通	6		
	後 志 道	※岩内	全	地域産業ビジネス	1		
(小計)		2校					
H33	—						
計		4校					

(7) 地域連携特例校の導入(学校名の前の※印は、平成29年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	協力校	摘 要
H31	空 知 南	道	※夕 張	全	普 通	1	岩見沢東	協力校は、H31に函館西高校・函館稜北高校の再編により設置する新設校
	渡 島	道	※松 前	全	普 通	1	新 設 校	
	(小計)		2校				2校	
H32	-							
H33	-							
計		2校					2校	

◎ 平成31～33年度高校配置計画／定時制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H31	-								
H32	-								
H33	胆 振 東	道	苫小牧工業	定	(検討中)	(検討中)		-1	2学級→1学級
	オホーツク東	町	東 藻 琴	定	生産科学	1	0	-1	(再掲) 女満別(全日制)と再編 1学級→0学級
	(小計)		2校					-2	
計		2校						-2 (-80)	

## 5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（30年推計）

	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年
空知南	1,280	1,195 ▲ 85	1,126 ▲ 69	1,123 ▲ 3	1,098 ▲ 25	1,124 +26	1,000 ▲ 124	1,053 +53
空知北	1,029	1,001 ▲ 28	933 ▲ 68	851 ▲ 82	900 +49	853 ▲ 47	835 ▲ 18	809 ▲ 26
石 狩	19,843	19,861 +18	19,108 ▲ 753	18,771 ▲ 337	19,302 +531	19,362 +60	19,489 +127	19,181 ▲ 308
後 志	1,676	1,600 ▲ 76	1,453 ▲ 147	1,428 ▲ 25	1,462 +34	1,422 ▲ 40	1,388 ▲ 34	1,398 +10
胆 振 西	1,582	1,540 ▲ 42	1,490 ▲ 50	1,363 ▲ 127	1,396 +33	1,348 ▲ 48	1,328 ▲ 20	1,210 ▲ 118
胆 振 東	1,907	1,747 ▲ 160	1,805 +58	1,713 ▲ 92	1,754 +41	1,667 ▲ 87	1,710 +43	1,709 ▲ 1
日 高	584	546 ▲ 38	524 ▲ 22	508 ▲ 16	560 +52	520 ▲ 40	495 ▲ 25	485 ▲ 10
渡 島	3,280	3,262 ▲ 18	3,126 ▲ 136	2,929 ▲ 197	2,940 +11	2,762 ▲ 178	2,891 +129	2,714 ▲ 177
檜 山	297	296 ▲ 1	247 ▲ 49	242 ▲ 5	228 ▲ 14	228 ±0	194 ▲ 34	206 +12
上 川 南	3,654	3,773 +119	3,599 ▲ 174	3,431 ▲ 168	3,516 +85	3,340 ▲ 176	3,294 ▲ 46	3,247 ▲ 47
上 川 北	549	489 ▲ 60	478 ▲ 11	458 ▲ 20	460 +2	444 ▲ 16	424 ▲ 20	422 ▲ 2
留 萌	336	361 +25	332 ▲ 29	301 ▲ 31	288 ▲ 13	298 +10	276 ▲ 22	267 ▲ 9
宗 谷	597	508 ▲ 89	511 +3	495 ▲ 16	500 +5	463 ▲ 37	447 ▲ 16	430 ▲ 17
オホーツク中	1,382	1,253 ▲ 129	1,236 ▲ 17	1,136 ▲ 100	1,177 +41	1,135 ▲ 42	1,176 +41	1,085 ▲ 91
オホーツク東	541	528 ▲ 13	494 ▲ 34	499 +5	490 ▲ 9	441 ▲ 49	500 +59	469 ▲ 31
オホーツク西	495	521 +26	479 ▲ 42	459 ▲ 20	419 ▲ 40	419 ±0	394 ▲ 25	375 ▲ 19
十 勝	3,065	3,078 +13	2,970 ▲ 108	2,860 ▲ 110	2,871 +11	2,878 +7	2,833 ▲ 45	2,756 ▲ 77
釧 路	2,009	1,975 ▲ 34	1,868 ▲ 107	1,780 ▲ 88	1,826 +46	1,783 ▲ 43	1,650 ▲ 133	1,623 ▲ 27
根 室	724	731 +7	733 +2	654 ▲ 79	672 +18	652 ▲ 20	620 ▲ 32	577 ▲ 43
合 計	44,830	44,265 ▲ 565	42,512 ▲ 1,753	41,001 ▲ 1,511	41,859 +858	41,139 ▲ 720	40,944 ▲ 195	40,016 ▲ 928

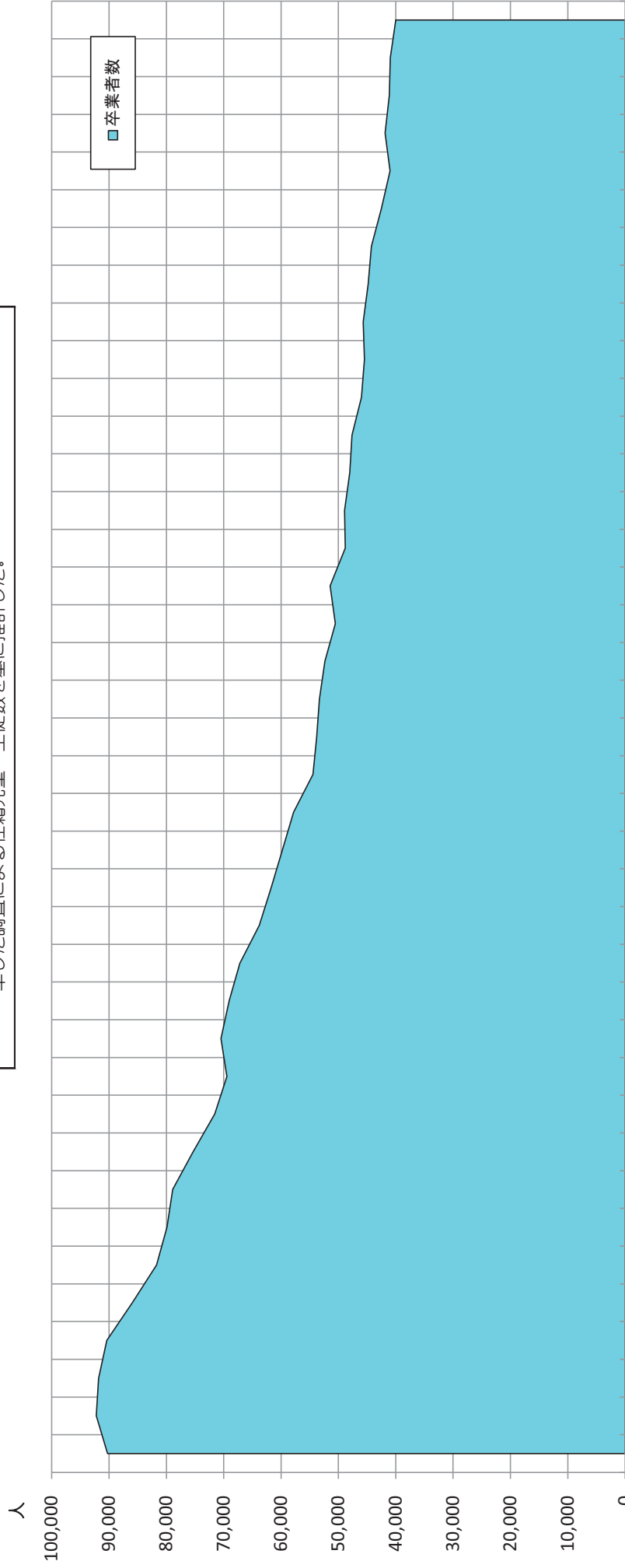
※中学校卒業生数は、平成30年5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※平成30年は実数、平成31年以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移

（昭和62年～平成37年）

（注）1 昭和62年3月～平成30年3月は実卒業者数である。  
 2 平成31年3月～平成37年3月は学校基本調査（平成30年5月1日現在）に  
 準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



Ⅲ 公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）学区別個表

空知南学区高校配置計画案										
区分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31～37年までの増減	平成34～37年までの増減
学区内中卒者数	1,280	1,195	1,126	1,123	1,098	1,124	1,000	1,053	▲ 227	▲ 70
対前年増減		▲ 85	▲ 69	▲ 3	▲ 25	+ 26	▲ 124	+ 53		
岩見沢市中卒者数	( 712 )	( 676 )	( 636 )	( 623 )	( 630 )	( 630 )	( 586 )	( 581 )	▲ 131	▲ 42
対前年増減		▲ 36	▲ 40	▲ 13	+ 7	± 0	▲ 44	▲ 5		
美幌市中卒者数	( 171 )	( 161 )	( 122 )	( 140 )	( 132 )	( 129 )	( 113 )	( 124 )	▲ 47	▲ 16
対前年増減		▲ 10	▲ 39	+ 18	▲ 8	▲ 3	▲ 16	+ 11		
三笠市中卒者数	( 46 )	( 55 )	( 49 )	( 59 )	( 55 )	( 43 )	( 46 )	( 49 )	+ 3	▲ 10
対前年増減		+ 9	▲ 6	+ 10	▲ 4	▲ 12	+ 3	+ 3		
夕張市中卒者数	( 40 )	( 31 )	( 36 )	( 31 )	( 32 )	( 34 )	( 32 )	( 27 )	▲ 13	▲ 4
対前年増減		▲ 9	+ 5	▲ 5	+ 1	+ 2	▲ 2	▲ 5		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
岩見沢東	5		5	-1				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内及び岩見沢市周辺市町において、再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校化の検討が必要		夕張の協力校
単 岩見沢西	4		4	9	普▲1					
岩見沢農業		農 7	7	20						
*岩見沢緑陵	4	商 2	6	0		普▲1				
総 美幌尚栄	2		2	16						
美幌聖華		看 2	2	0						
*三 笠		家 1	1	-1						
月 形	1		1	15						
夕 張	1		1	12	地域連携特別校 導入(計画変更)					
長 沼	2→1		1	0	( 計画決定時 に 公 表 )					
栗 山	2		2	28						
南 幌	1		1	30			普▲1			
12校	22 →21	12	33	128	普▲1	普▲1	普▲1			H30二次募集後学級減

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特別校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の\*は市町村立学校。(以下同)

注4 ( )は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 平成30年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、平成31年度の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注6「平成34～37年度までの見通し」欄の学級数の調整については平成37年と平成33年の中卒者数の比較により算出。(以下同)

### 空知北学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31~37年までの増減	平成34~37年までの増減
学区内中卒者数	1,029	1,001	933	851	900	853	835	809	▲ 220	▲ 42
対前年増減		▲ 28	▲ 68	▲ 82	+ 49	▲ 47	▲ 18	▲ 26		
滝川市中卒者数	( 317 )	( 326 )	( 307 )	( 278 )	( 326 )	( 303 )	( 286 )	( 288 )	▲ 29	+ 10
対前年増減		+ 9	▲ 19	▲ 29	+ 48	▲ 23	▲ 17	+ 2		
砂川市中卒者数	( 151 )	( 139 )	( 133 )	( 126 )	( 115 )	( 113 )	( 120 )	( 111 )	▲ 40	▲ 15
対前年増減		▲ 12	▲ 6	▲ 7	▲ 11	▲ 2	+ 7	▲ 9		
歌志内市中卒者数	( 19 )	( 15 )	( 21 )	( 15 )	( 16 )	( 14 )	( 11 )	( 10 )	▲ 9	▲ 5
対前年増減		▲ 4	+ 6	▲ 6	+ 1	▲ 2	▲ 3	▲ 1		
芦別市中卒者数	( 92 )	( 77 )	( 74 )	( 79 )	( 78 )	( 58 )	( 67 )	( 62 )	▲ 30	▲ 17
対前年増減		▲ 15	▲ 3	+ 5	▲ 1	▲ 20	+ 9	▲ 5		
赤平市中卒者数	( 76 )	( 62 )	( 53 )	( 44 )	( 54 )	( 60 )	( 44 )	( 46 )	▲ 30	+ 2
対前年増減		▲ 14	▲ 9	▲ 9	+ 10	+ 6	▲ 16	+ 2		
深川市中卒者数	( 135 )	( 163 )	( 142 )	( 122 )	( 124 )	( 124 )	( 116 )	( 113 )	▲ 22	▲ 9
対前年増減		+ 28	▲ 21	▲ 20	+ 2	± 0	▲ 8	▲ 3		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
滝 川	6		6	2			普▲1	○4年間で1～2学級相当の調整が必要		
滝川工業		工 2	2	23				○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要		
*滝川西	3	商 3	6	0				○滝川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
単 砂 川	3		3	8				○深川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要		
奈井江商業		商 1	1	14				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
新十津川農業		農 1	1	15				○農業に関する学科を置く高校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
芦 別	3		3	33						
深川西	4→2		2	1	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
深川東		農 1 商 2	3	84		商▲1 (計画変更)				
9校	19 →17	10	27	180		商▲1	普▲1			



### 石狩学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	19,843	19,861	19,108	18,771	19,302	19,362	19,489	19,181	▲ 662	+ 410
対前年増減		+ 18	▲ 753	▲ 337	+ 531	+ 60	+ 127	▲ 308		
札幌市中卒者数	( 15,609 )	( 15,558 )	( 15,042 )	( 14,860 )	( 15,178 )	( 15,338 )	( 15,346 )	( 15,171 )	▲ 438	+ 311
対前年増減		▲ 51	▲ 516	▲ 182	+ 318	+ 160	+ 8	▲ 175		
江別市中卒者数	( 1,252 )	( 1,243 )	( 1,175 )	( 1,142 )	( 1,269 )	( 1,184 )	( 1,249 )	( 1,199 )	▲ 53	+ 57
対前年増減		▲ 9	▲ 68	▲ 33	+ 127	▲ 85	+ 65	▲ 50		
千歳市中卒者数	( 958 )	( 904 )	( 859 )	( 899 )	( 922 )	( 926 )	( 1,003 )	( 964 )	+ 6	+ 65
対前年増減		▲ 54	▲ 45	+ 40	+ 23	+ 4	+ 77	▲ 39		
恵庭市中卒者数	( 671 )	( 704 )	( 637 )	( 619 )	( 663 )	( 678 )	( 637 )	( 646 )	▲ 25	+ 27
対前年増減		+ 33	▲ 67	▲ 18	+ 44	+ 15	▲ 41	+ 9		
北広島市中卒者数	( 656 )	( 709 )	( 640 )	( 584 )	( 587 )	( 601 )	( 567 )	( 593 )	▲ 63	+ 9
対前年増減		+ 53	▲ 69	▲ 56	+ 3	+ 14	▲ 34	+ 26		
石狩市中卒者数	( 532 )	( 583 )	( 611 )	( 542 )	( 538 )	( 527 )	( 560 )	( 487 )	▲ 45	▲ 55
対前年増減		+ 51	+ 28	▲ 69	▲ 4	▲ 11	+ 33	▲ 73		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-1				○4年間で6～7学級相当の調整が必要 ○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、 欠員の状況やこれまでの調整などを考 慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減に あわせて、生徒急増期に新設した高校 を中心とした再編を含め、公立高校全 体での定員調整の検討が必要		
札幌西	8		8	-2						
札幌南	8		8	0						
札幌北	8		8	0						
札幌月寒	8		8	-5		普▲1				
札幌啓成	8		8	-1						
札幌北陵	8		8	-1		普▲1				
単 札幌手稲	8		8	-2		普▲1				
フ 札幌丘珠	8		8	2		普▲1				
札幌西陵	8		8	24		普▲1				
単 札幌白石	8		8	-1		普▲1				
単 札幌東陵	8		8	16			普▲1			
札幌南陵	5		5	31						
札幌東豊	8		8	39		普▲1				
総 札幌厚別	7		7	0						
札幌真栄	4		4	0			普+1			
フ 札幌あすかぜ	8		8	26		普▲1				
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	0						
単 札幌英藍	8		8	1			普▲1			

学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	27					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	0				
江 別	5	商 家	2 1	8	34		普▲1		
フ 野 幌	6→5		5	30	(計画決定時 に公表)				H30二次募集後学級減
単 大 麻	7		7	-4					
千 歳	7	商	2	9	14		普▲1		
フ 千歳北陽	6		6	15					
単 北 広 島	8		8	0			普▲1		
北広島西	8		8	37		普▲1			
石 狩 南	7		7	0					
当 別	2	農 家	1 1	4	45				
恵 庭 南	8		8	1		普▲1			
恵 庭 北	7		7	0					
札幌工業		工	8	8	0				
札幌琴似工業		工	8	8	-1				
札幌東商業		商	8	8	0				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-1					
*市立札幌藻岩	8		8	-1			普▲2		
*市立札幌平岸	8		8	-2					
*市立札幌清田	8		8	-2		普▲2 単位制導入			
中 等 *市立札幌開成	4		4	4					コスモサイエンス科単位制
*市立札幌新川	8		8	-1					
*市立札幌啓北商業		商	6	6	13				
44校	280→ 279	41	320	334	普▲1	普▲1 2	普▲6 普+1		

### 後志学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37年までの増減	平成34~37年までの増減
学区内中卒者数	1,676	1,600	1,453	1,428	1,462	1,422	1,388	1,398	▲ 278	▲ 30
対前年増減		▲ 76	▲ 147	▲ 25	+ 34	▲ 40	▲ 34	+ 10		
小樽市中卒者数	( 923 )	( 865 )	( 770 )	( 784 )	( 787 )	( 737 )	( 737 )	( 724 )	▲ 199	▲ 60
対前年増減		▲ 58	▲ 95	+ 14	+ 3	▲ 50	± 0	▲ 13		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	6		6	0				○4年間で0~1学級相当の調整が必要		
単 小樽桜陽	6		6	11		普▲1		○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内及び小樽市周辺町において、定員調整の検討が必要		
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	6				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
小樽水産		水 4	4	0				○地域連携特別校及び農業に関する学科を置く道立高校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
総 余市紅志	2		2	35				○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
単 岩 内	3	商 1	4	36		商業に単位制導入 (計画変更)				寿部の協力校 普通科単位制
地 寿 部	1		1	14						
単 倶 知 安	4		4	27						蘭越の協力校
地 蘭 越	1		1	29						再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	8						
10校	23	10	33	166		普▲1				

胆振西学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	1,582	1,540	1,490	1,363	1,396	1,348	1,328	1,210	▲ 372	▲ 153
対前年増減		▲ 42	▲ 50	▲ 127	+ 33	▲ 48	▲ 20	▲ 118		
室蘭市中卒者数	( 705 )	( 674 )	( 629 )	( 605 )	( 550 )	( 548 )	( 558 )	( 518 )	▲ 187	▲ 87
対前年増減		▲ 31	▲ 45	▲ 24	▲ 55	▲ 2	+ 10	▲ 40		
登別市中卒者数	( 435 )	( 496 )	( 426 )	( 395 )	( 442 )	( 422 )	( 401 )	( 356 )	▲ 79	▲ 39
対前年増減		+ 61	▲ 70	▲ 31	+ 47	▲ 20	▲ 21	▲ 45		
伊達市中卒者数	( 298 )	( 279 )	( 315 )	( 261 )	( 278 )	( 275 )	( 276 )	( 248 )	▲ 50	▲ 13
対前年増減		▲ 19	+ 36	▲ 54	+ 17	▲ 3	+ 1	▲ 28		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
室 蘭 栄	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内において定員調整の検討が必要 ○伊達市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要 ○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
単 室蘭清水丘	4		4	0						
総 室蘭東翔	5		5	0		総▲1				
室蘭工業		工 5	5	42	工▲1					
登別青嶺	4		4	12			普▲1			
中 登別明日	2		2	3						
伊 達	3		3	18						
伊達緑丘	4		4	16			普▲1			
地 虻 田		商 1	1	26						
*壮 警		農 1	1	17						
10校	28	7	35	134	工▲1	総▲1	普▲2			

### 胆振東学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	1,907	1,747	1,805	1,713	1,754	1,667	1,710	1,709	▲ 198	▲ 4
対前年増減		▲ 160	+ 58	▲ 92	+ 41	▲ 87	+ 43	▲ 1		
苫小牧市中卒者数	( 1,619 )	( 1,479 )	( 1,550 )	( 1,463 )	( 1,502 )	( 1,461 )	( 1,499 )	( 1,470 )	▲ 149	+ 7
対前年増減		▲ 140	+ 71	▲ 87	+ 39	▲ 41	+ 38	▲ 29		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や学校・学科の配置状況を考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		厚真の協力校
苫小牧東	6		6	0						穂別の協力校
苫小牧西	4		4	-1						
単 苫小牧南	5		5	0	普▲1					
苫小牧工業		工 6	6	-1						
(苫小牧工業)		(工2)	(2)	(5)		[ 工▲1 ]				
苫小牧総合経済		商 4	4	0			商▲1			
白老東	2		2	0						
地 厚 真	1		1	16						
地 穂 別	1		1	16						
追 分	1		1	8						
中高 鷗 川	2		2	26						
10校	22	10	32	64	普▲1		商▲1 [ 工▲1 ]			

### 日高学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	584	546	524	508	560	520	495	485	▲ 99	▲ 23
対前年増減		▲ 38	▲ 22	▲ 16	+ 52	▲ 40	▲ 25	▲ 10		
浦河町中卒者数	( 121 )	( 99 )	( 104 )	( 94 )	( 88 )	( 91 )	( 90 )	( 78 )	▲ 43	▲ 16
対前年増減		▲ 22	+ 5	▲ 10	▲ 6	+ 3	▲ 1	▲ 12		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	35				○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校化の検討が必要		平取の協力校
静内農業		農 2	2	39						
富 川	1		1	15						
地 平 取	1		1	18						
総 浦 河	4		4	40						
中高 *えりも	2		2	42						
6校	13	2	15	189						

### 渡島学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31～37 年までの 増減	平成34～37 年までの 増減
学区内中卒者数	3,280	3,262	3,126	2,929	2,940	2,762	2,891	2,714	▲ 566	▲ 215
対前年増減		▲ 18	▲ 136	▲ 197	+ 11	▲ 178	+ 129	▲ 177		
函館市中卒者数	( 2,053 )	( 2,082 )	( 1,972 )	( 1,843 )	( 1,891 )	( 1,766 )	( 1,856 )	( 1,747 )	▲ 306	▲ 96
対前年増減		+ 29	▲ 110	▲ 129	+ 48	▲ 125	+ 90	▲ 109		
北斗市中卒者数	( 496 )	( 478 )	( 446 )	( 422 )	( 439 )	( 415 )	( 443 )	( 379 )	▲ 117	▲ 43
対前年増減		▲ 18	▲ 32	▲ 24	+ 17	▲ 24	+ 28	▲ 64		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し	摘要	
函館中部	6		6	0			普▲1	○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要 ○中卒者数を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	南茅部の協力校	
函館西	3		3	0	普▲3					
函館稜北	3		3	0	普▲3					
新設校					普+6 単位制導入				函館西校舎を使用 松前の協力校	
単 *市立函館	6		6	0						
函館水産		水 4	4	-1						
函館商業		商 4	4	0					福島商業の協力校	
函館工業		工 6	6	0		工▲1				
地 南茅部	1		1	17						
上 磯	1		1	15						
七 飯	3		3	0						
大野農業		農 4	4	58		農▲1				
松 前	1		1	27	地域連携特別校 導入(計画変更)					
*知内	2		2	25						
地 福島商業		商 1	1	26						
八 雲	3	商 1	4	74			普▲1		長万部の協力校	
総 森	2		2	27						
地 長万部	1		1	11						
17校	32	20	52	279	普▲6 普+6	工▲1 農▲1	普▲2			



### 檜山学区高校配置計画案

檜山学区高校配置計画案													
区 分		H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減		
学区内中卒者数		297	296	247	242	228	228	194	206	▲ 91	▲ 36		
対前年増減			▲ 1	▲ 49	▲ 5	▲ 14	± 0	▲ 34	+ 12				
江差町中卒者数		( 71 )	( 51 )	( 56 )	( 50 )	( 46 )	( 57 )	( 42 )	( 41 )	▲ 30	▲ 9		
対前年増減			▲ 20	+ 5	▲ 6	▲ 4	+ 11	▲ 15	▲ 1				
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し			摘要		
	普通	職業	計										
単 江 差	3		3	10				○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要			上ノ国の協力校		
地 上ノ国	1		1	12									
総 檜 山 北	3→2		2	16	〔計画決定時に公表〕								H30二次募集後学級減
中高 *奥 尻	1		1	17									
4校	8→7	0	7	55									

### 上川南学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31～37 年までの 増減	平成34～37 年までの 増減
学区内中卒者数	3,654	3,773	3,599	3,431	3,516	3,340	3,294	3,247	▲ 407	▲ 184
対前年増減		+ 119	▲ 174	▲ 168	+ 85	▲ 176	▲ 46	▲ 47		
旭川市中卒者数	( 2,703 )	( 2,918 )	( 2,729 )	( 2,621 )	( 2,711 )	( 2,558 )	( 2,545 )	( 2,501 )	▲ 202	▲ 120
対前年増減		+ 215	▲ 189	▲ 108	+ 90	▲ 153	▲ 13	▲ 44		
富良野市中卒者数	( 228 )	( 179 )	( 192 )	( 166 )	( 175 )	( 165 )	( 165 )	( 140 )	▲ 88	▲ 26
対前年増減		▲ 49	+ 13	▲ 26	+ 9	▲ 10	± 0	▲ 25		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し			摘要
	普通	職業	計							
旭川東	7		7	-1		普▲1			○4年間で3～4学級相当の調整が必要  ○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町及び富良野市や富良野市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要  ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要  ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校化の検討が必要	
旭川西	6		6	0		普▲1				
単 旭川北	6		6	1						
総 旭川南	6		6	4						
単 旭川永嶺	7		7	8		普▲1				
旭川商業		商 6	6	9			商▲1			
旭川工業		工 6	6	-1						
旭川農業		農 4	4	-1						
鷹 栖	1		1	0						
東 川	2		2	12						
美 瑛	2		2	28						
中高 上 川	2→1		1	10	( 計画決定時に公表 )					H30二次募集後学級減
単 富良野	4		4	20						
富良野緑峰		商 2 農 1 工 1	4	39		商▲1 (計画変更)				
上富良野	1		1	11						
*南富良野	1		1	18						
16校	45→ 44	20	64	157		普▲2 商▲1	普▲1 商▲1			

### 上川北学区高校配置計画案

上川北学区高校配置計画案											
区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減	
学区内中卒者数	549	489	478	458	460	444	424	422	▲ 127	▲ 36	
対前年増減		▲ 60	▲ 11	▲ 20	+ 2	▲ 16	▲ 20	▲ 2			
士別市中卒者数	( 176 )	( 153 )	( 145 )	( 146 )	( 133 )	( 149 )	( 123 )	( 124 )	▲ 52	▲ 22	
対前年増減		▲ 23	▲ 8	+ 1	▲ 13	+ 16	▲ 26	+ 1			
名寄市中卒者数	( 248 )	( 208 )	( 208 )	( 182 )	( 216 )	( 184 )	( 193 )	( 178 )	▲ 70	▲ 4	
対前年増減		▲ 40	± 0	▲ 26	+ 34	▲ 32	+ 9	▲ 15			
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
士別翔雲	3	商 1	4	26				○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、名寄市内で再編を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		下川商業の協力校	
地 下川商業		商 1	1	26							
名 寄	4		4	23							美深の協力校
地 美 深	1		1	14							
産 名寄産業		工 2 農 1 家 1	4	56		工▲1 (計画変更)					
総 *剣 淵	1		1	11							
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	3							
7校	10	6	16	159		工▲1					

### 留萌学区高校配置計画案

留萌学区高校配置計画案											
区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31～37年までの増減	平成34～37年までの増減	
学区内中卒者数	336	361	332	301	288	298	276	267			
対前年増減		+ 25	▲ 29	▲ 31	▲ 13	+ 10	▲ 22	▲ 9	▲ 69	▲ 34	
留萌市中卒者数	( 134 )	( 148 )	( 141 )	( 159 )	( 131 )	( 141 )	( 123 )	( 121 )			
対前年増減		+ 14	▲ 7	+ 18	▲ 28	+ 10	▲ 18	▲ 2	▲ 13	▲ 38	
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数				H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計								
単 留 萌	4→3	工 1 商 1	5	36	( 計画決定時 に公表 )				○4年間で0～1学級相当の調整が必要  ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要  ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要  ○地域連携特別校及び農業に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	古前商業の協力校 H30二次募集後学級減 普通科単位制	
羽 幌	2		2	18							
地 苫前商業		商 1	1	30				再編整備留保			
天 塩	2		2	40							
遠別農業		農 1	1	14							
5校	8→7	4	11	138							

### 宗谷学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31～37 年までの 増減	平成34～37 年までの 増減	
学区内中卒者数	597	508	511	495	500	463	447	430	▲ 167	▲ 65	
対前年増減		▲ 89	+ 3	▲ 16	+ 5	▲ 37	▲ 16	▲ 17			
稚内市中卒者数	( 322 )	( 259 )	( 278 )	( 253 )	( 262 )	( 238 )	( 222 )	( 222 )	▲ 100	▲ 31	
対前年増減		▲ 63	+ 19	▲ 25	+ 9	▲ 24	▲ 16	± 0			
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数				H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計								
稚 内	3	商 1 看 1	5	4	普通及び商業に 単位制導入				○4年間で1～2学級相当の調整が必要		豊富な協力校
地 豊 富	1		1	17					○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要		
浜 頓 別	2		2	29					○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
枝 幸	2		2	21					○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
利 尻	1	商 1	2	53					○離島にある高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
礼 文	1		1	31					○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
6校	10	3	13	155							

## オホーツク中学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減	
学区内中卒者数	1,382	1,253	1,236	1,136	1,177	1,135	1,176	1,085	▲ 297	▲ 51	
対前年増減		▲ 129	▲ 17	▲ 100	+ 41	▲ 42	+ 41	▲ 91			
北見市中卒者数	( 1,053 )	( 952 )	( 936 )	( 865 )	( 887 )	( 909 )	( 916 )	( 828 )	▲ 225	▲ 37	
対前年増減		▲ 101	▲ 16	▲ 71	+ 22	+ 22	+ 7	▲ 88			
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要
北見北斗	6		6	1					○4年間で1~2学級相当の調整が必要		常呂の協力校
単 北見柏陽	6		6	0	普▲1				○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要		佐呂間の協力校
フ 北見緑陵	4		4	-1			普▲1		○北見市において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
北見工業		工 3	3	6					○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
北見商業		商 4	4	15	商▲1				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		再編整備留保
置 戸		福 1	1	30					○地域連携特例校及び福祉に関する学科を置く高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的な取組とその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
総 留 辺 薬	1		1	21					○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校化の検討が必要		
地 佐 呂 間	1		1	17							再編整備留保
地 常 呂	1		1	26							
訓 子 府	1		1	9							
地 津 別	1		1	0							
美 幌	2	農 2	4	66							津別の協力校
12校	23	10	33	190	普▲1 商▲1			普▲1			

オホーツク東学区高校配置計画案

区 分	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減		
学区内中卒者数	541	528	494	499	490	441	500	469	▲ 72	▲ 30		
対前年増減		▲ 13	▲ 34	+ 5	▲ 9	▲ 49	+ 59	▲ 31				
網走市中卒者数	( 306 )	( 297 )	( 274 )	( 296 )	( 262 )	( 238 )	( 256 )	( 243 )	▲ 63	▲ 53		
対前年増減		▲ 9	▲ 23	+ 22	▲ 34	▲ 24	+ 18	▲ 13				
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数				H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計									
単 網走南ヶ丘	5		5	0		普▲1			○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		清里の協力校	
網走桂陽	2	商 2	4	29								
女 満 別	1		1	22		普▲1						
( * 東藻琴 )		( 農1 )	( 1 )	( 26 )		[ 農▲1 ]						
* 新設校						総+1						女満別・東藻琴の両校舎を使用
総 斜 里	2→1		1	1	[ 計画決定時に公表 ]							H30二次募集後学級減
地 清 里	1		1	0								
5校	11→10	2	12	52		普▲1	普▲1、(農▲1)	総+1				



### オホーツク西学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	495	521	479	459	419	419	394	375	▲ 120	▲ 84
対前年増減		+ 26	▲ 42	▲ 20	▲ 40	± 0	▲ 25	▲ 19		
紋別市中卒者数	( 155 )	( 174 )	( 144 )	( 160 )	( 139 )	( 134 )	( 128 )	( 117 )	▲ 38	▲ 43
対前年増減		+ 19	▲ 30	+ 16	▲ 21	▲ 5	▲ 6	▲ 11		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	20				○4年間で2~3学級相当の調整が必要		
紋 別	3→2	商 1 工 1	4	3	( 計画決定時 に 公 表 )			○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮した定員調整の検討が必要		興部、雄武の協力校 H30二次募集後学級減
地 興 部	1		1	18				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
地 雄 武	1		1	26				○地域連携特別校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要		H30二次募集後学級減
中 湧 別	2→1		1	2	( 計画決定時 に 公 表 )			○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校化の検討が必要		
5校	12→ 10	2	12	69						

十勝学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減
学区内中卒者数	3,065	3,078	2,970	2,860	2,871	2,878	2,833	2,756	▲ 309	▲ 104
対前年増減		+ 13	▲ 108	▲ 110	+ 11	+ 7	▲ 45	▲ 77		
帯広市中卒者数	( 1,377 )	( 1,364 )	( 1,349 )	( 1,274 )	( 1,321 )	( 1,321 )	( 1,332 )	( 1,324 )	▲ 53	50
対前年増減		▲ 13	▲ 15	▲ 75	+ 47	± 0	+ 11	▲ 8		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
帯広柏葉	7		7	1			普▲1	○4年間で1～2学級相当の調整が必要		
単 帯広三条	6		6	-1				○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要		
帯広緑陽	4		4	0						
帯広工業		工 4	4	0				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
帯広農業		農 5	5	0						
*帯広南商業		商 5	5	0				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特別校化の検討が必要		
単 音 更	4		4	27						
芽 室	4		4	1						
霧 別	1		1	17	普▲1 (計画変更)					
新設校					普+3 (計画変更)					私立江陵校舎を使用
上 士 幌	2		2	30						
*士 幌		農 2	2	10						
総 清 水	4→3		3	23	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
中高 鹿 追	2		2	22						
更別農業		農 2	2	32						
大 樹	2		2	32						
中高 広 尾	2→1		1	0	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
総 池 田	2		2	15						
本 別	2→1		1	8	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
足 寄	2		2	13						
19校	44 →41	18	59	230	普▲1 普+3		普▲1			

### 釧路学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31～37年までの増減	平成34～37年までの増減
学区内中卒者数	2,009	1,975	1,868	1,780	1,826	1,783	1,650	1,623	▲ 386	▲ 157
対前年増減		▲ 34	▲ 107	▲ 88	+ 46	▲ 43	▲ 133	▲ 27		
釧路市中卒者数	( 1,458 )	( 1,427 )	( 1,357 )	( 1,302 )	( 1,343 )	( 1,323 )	( 1,207 )	( 1,192 )	▲ 266	▲ 110
対前年増減		▲ 31	▲ 70	▲ 55	+ 41	▲ 20	▲ 116	▲ 15		
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数				平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34～37年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計	H30 欠員						
釧路湖陵	6		6	1				○4年間で3～4学級相当の調整が必要		阿寒の協力校
単 釧路江南	5		5	0				○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要		
釧路商業		商 4	4	13				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
釧路工業		工 6	6	18		工▲1		○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
総 釧路明輝	5		5	0				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校化の検討が必要		再編整備留保
フ *釧路北陽	6		6	0		普▲1				
釧路東	3		3	1						
地 阿 寒	1		1	24						
白 糠	2		2	32						
総 標 茶	3→2		2	3	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
弟子屈	2→1		1	13	(計画決定時に公表)					H30二次募集後学級減
厚岸翔洋	1	水 1	2	20						
*霧多布	2		2	24						
13校	36 →34	11	45	149		工▲1 普▲1				

### 根室学区高校配置計画案

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	平成31~37 年までの 増減	平成34~37 年までの 増減	
学区内中卒者数	724	731	733	654	672	652	620	577	▲ 147	▲ 77	
対前年増減		+ 7	+ 2	▲ 79	+ 18	▲ 20	▲ 32	▲ 43			
根室市中卒者数	( 207 )	( 199 )	( 211 )	( 201 )	( 196 )	( 197 )	( 174 )	( 151 )	▲ 56	▲ 50	
対前年増減		▲ 8	+ 12	▲ 10	▲ 5	+ 1	▲ 23	▲ 23			
学校名	平成30年度の状況 学科及び募集学級数			H30 欠員	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34~37年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 根 室	4→3	商 2	5	30	〔計画決定時 に公表〕			○4年間で1~2学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校化の検討が必要	H30二次募集後学級減		
別 海	3	農 1	4	38							
中 標 津	4	商 2	6	67						商▲1	
標 津	2		2	29							
*中標津農業		農 2	2	51							
中高 羅 臼	1		1	7							
6校	14 →13	7	20	222			商▲1				

《全学区共通事項》

平成31年度以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。